

宙の会主張 巡回連絡の徹底 2025/3/15 第16回総会

朝日新聞

<https://www.asahi.com/articles/AST3H4406T3HUTIL009M.html>

殺人事件遺族ら、「警察官の巡回連絡、徹底を」 国に要望へ

藤田大道 2025年3月16日 11時00分

殺人事件の被害者遺族らでつくる「宙（そら）の会」が15日、東京都千代田区内で総会を開き、警察官が地域の住宅などを訪ねる「巡回連絡」の徹底を求める国への要望書を公表した。

近年は組織に属さず、単独で攻撃を図る「ローンオフエンダー」による事件が相次いでいる。小林賢二会長（78）は、犯行を計画する人に対面したときの言動や態度のほか、近隣住民からの相談で犯行の「兆し」を把握できる可能性があるとの説明。「犯行を断念させるチャンスもゼロではないのではないか」とした。

また、継続して訴えているDNA捜査の法整備や、加害者の賠償金を国が肩代わりする代執行制度の確立を求める陳情・要望書もまとめた。文書は今後国に送付するという。

産経新聞

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2f0ca414109e41b355f07eaf7dc1538bbe8ba44f>

殺人事件遺族らによる「宙の会」、警察の巡回連絡徹底を訴え 安倍元首相銃撃など指摘

前島沙紀 3/15(土) 20:39 配信

殺人事件被害者の遺族らでつくる「宙（そら）の会」（小林賢二会長）は15日、東京都内で会見を開き、警察官が管内住民の自宅を訪れる巡回連絡を徹底することや、被害者の経済負担軽減策導入などを国に求める方針を確認したと発表した。

会見では、令和4年に安倍晋三元首相が凶弾に倒れた事件で、殺人などの罪で起訴された被告が、事件前に銃の密造を続けていたことなどに触れ、巡回連絡で犯行の兆しを認知できていた可能性があるとの指摘。小林会長は「未解決事件が長期化する中、科学捜査など工夫した捜査も望むが、現況は歯がゆいほどひたすら

に時が経過している。警察全体で基本に根差した活動に目覚めていただきたい」と話した。

そのほか、中学校などで被害者遺族が命の大切さに関する講演を行う教育の徹底や、被害者側への損害賠償が確実に履行されるため、国が立て替えた上で加害者側から資金を回収する「代執行」制度の導入、捜査での DNA 情報のさらなる活用も求めた。